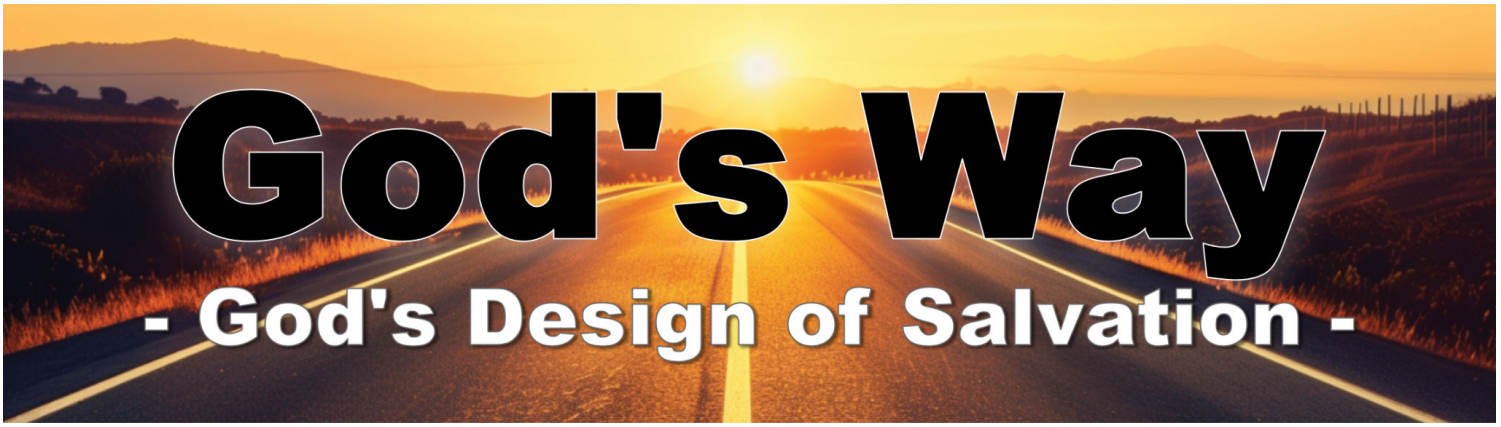


Week of June 21, 2026 - Don't You Teach Yourself? Small Group Lesson 6

知り合う

ある一人の従業員の悪い態度やミスのせいで、「この店（またはレストラン）には二度と来るものか」と心に誓った瞬間のことを思い出してみてください。なぜ私たちは、たった一人の代表者の行動だけで、ブランドや企業全体を、簡単に判断してしまうのでしょうか？

聖句　ローマの信徒への手紙 2:17-24（聖書協会共同訳）

声に出して読んでください：

17 ところで、あなたはユダヤ人と名乗り、律法に頼り、神を誇りとし、18 御心を知り、律法に教えられて何が大切かをわきまえています。19-20 また、律法の中に、知識と真理が具体的に示されていると考え、盲人の案内者、闇の中にいる者の光、無知な者の導き手、未熟な者の教師であると自負しています。21 それなら、どうして、他人には教えながら自分には教えないのですか。盗むなと説きながら盗むのですか。22 姦淫するなと言いながら、姦淫を行うのですか。偶像を忌み嫌いながら、神殿を荒らすのですか。23 あなたは律法を誇りとしながら、律法に背いて神を辱めています。24 「神の名は、あなたがたのゆえに、異邦人の中で侮られている」と書いてあるとおりです。25 あなたが律法を行うなら、割礼は役にも立つでしょう。しかし、律法に背くなら、あなたの割礼は割礼を受けていないのと同じです。

簡潔に内容をもう一度確認してください。どのような励ましや挑戦、慰めなどを与えられますか？

学び

今日の聖書箇所に基づいて、次の質問を一緒に考えましょう。

1. 17～20節によると、ユダヤ人は具体的にどのようなことを誇りとしていましたか？彼らは律法と特別な知識を持っていることによって、どのような役割（任務）を担っていましたか？

2. 21～23節で、パウロは一連の鋭い質問を投げかけています。彼らが教えていることと実際の生き方との間にある、パウロが指摘している主な「矛盾」は何ですか？ 23節によると、この矛盾がもたらす最終的な結果は何ですか？

3. 24節には「神の名は、あなたがたのゆえに、異邦人の中で侮られている」とあります。これまでの節の文脈を踏まえると、なぜ異邦人たちは神の名を侮ったり、辱めたりしていたのでしょうか？

分かち合い

話し合い　その１：

タケシ牧師は、私たちは聖書の言葉が自分の意見と一致するときは素直に受け入れるのに、自分の欲求に反するときにはしばしば例外を作ってしまう（預言者を無視したアハブ王のように）と指摘しました。聖化（きよくなること）は肉の力によってではなく、私たちの内に住まわれる聖霊に自分を明け渡す（委ねる）ことによってもたらされると私たちは知っています。では、自分の欲望に強く引っ張られそうな時、聖霊にすべてをお任せすることは、私たちが神様に従う上でどのように助けになるでしょうか？

話し合い　その2：

ユダヤ人は書かれた律法（トーラー）を持っていることに強く依存していましたが、実際にはそれを守ることができませんでした。タケシ牧師がメガドン・キホーテで怒りを感じた話は、私たちが心から「従いたい」と願っていても、自分の意志の力では失敗してしまうことを示しています。人間の気力（努力）や規則を守ることによってきよさ（聖さ）を達成しようとすることは、燃え尽き、高慢、あるいは絶望にしかつながりません。このことに気づくとき、私たちは「もっと頑張らなければ」というプレッシャーからどのように解放されるでしょうか？また、私たちが日々福音を必要としていることについて、これは何を教えているでしょうか？

具体的な祈りの課題を分かち合い、互いに仕え合いましょう。